

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤマザキマザック新棟	階数	地上4階
建設地	愛知県丹羽郡大口町竹田2丁目141、141-1、141-4	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	650人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年5月 予定	評価の実施日	2025年9月30日
敷地面積	14,488㎡	作成者	峰廣大輔
建築面積	7,453㎡	確認日	2025年9月30日
延床面積	18,200㎡	確認者	峰廣大輔



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 65%

③上記+②以外の 65%

④上記+ 65%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">4.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">11.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
ヤマザキマザック新棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
				3.0	4.0	0.40	3.0	3.0	-	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
目標値の最大が45dBaで計画										
3.0 4.0 0.15 - - - 4.0										
1.2 遮音										
T-2のサッシで計画										
0.4 4.2 0.40 - - -										
1 開口部遮音性能										
- 5.0 0.60 - 3.0 -										
2 界壁遮音性能										
- 3.0 0.40 - 3.0 -										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
- 3.0 - - 3.0 -										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
- 3.0 - - 3.0 -										
1.3 吸音										
会議室にて床、天井を吸音性のある素材で計画										
- 4.0 0.20 - 3.0 -										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
0.5 3.8 0.50 - - -										
2 外皮性能										
3.0 3.0 0.38 - - -										
3 ゾーン別制御性										
3.0 5.0 0.25 - 3.0 -										
2.2 湿度制御										
3.0 4.0 0.38 - - -										
2.3 空調方式										
3.0 3.0 0.20 - - -										
3.0 3.0 0.30 - - -										
3 光・視環境										
3.1 屋光利用										
1 屋光率										
0.2 2.6 0.25 - - -										
2 方位別開口										
0.3 2.2 0.30 - - -										
3 屋光利用設備										
3.0 1.0 0.60 - 3.0 -										
屋光利用設備を利用する計画										
- - - - 3.0 -										
3.0 4.0 0.40 - 3.0 -										
3.2 グレア対策										
1 屋光制御										
0.3 2.0 0.30 - - -										
5.0 2.0 1.00 - 3.0 -										
3.3 照度										
全般照明方式にて机上面500lx以上で計画										
3.0 4.0 0.15 - 3.0 -										
3.4 照明制御										
3.0 3.0 0.25 - 3.0 -										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
0.2 4.4 0.25 - - -										
0.5 5.0 0.50 - - -										
3.0 5.0 1.00 - 3.0 -										
竣工後、化学汚染物質を測定し対策を行う。										
4.2 換気										
1 換気量										
0.3 3.6 0.30 - - -										
一人当たり30m3/hの換気計画										
3.0 4.0 0.33 - - -										
2 自然換気性能										
3.0 3.0 0.33 - 3.0 -										
3 取り入れ外気への配慮										
汚染源がなく、給排気口の離隔距離を十分に確保する計画										
3.0 4.0 0.33 - - -										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
0.2 4.0 0.20 - - -										
3.0 3.0 0.50 - - -										
2 喫煙の制御										
非喫煙者が煙に曝されないよう計画										
3.0 5.0 0.50 - - -										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
0.4 3.2 0.40 - - -										
0.4 2.3 0.40 - - -										
2 高度情報通信設備対応										
3.0 3.0 0.33 - 3.0 -										
3 バリアフリー計画										
3.0 3.0 0.33 - 3.0 -										
3.0 1.0 0.33 - - -										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
0.3 3.6 0.30 - - -										
3.0 1.0 0.33 - 3.0 -										
2 リフレッシュスペース										
3.0 5.0 0.33 - - -										
3 内装計画										
3.0 5.0 0.33 - - -										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
0.3 4.0 0.30 - - -										
3.0 4.0 0.50 - - -										
2 維持管理用機能の確保										
外部には対候性仕上げを採用し、内部は防汚性の高い仕上げを採用										
3.0 4.0 0.50 - - -										
維持管理に必要な諸室・機能を計画										
4.0 0.50 - - -										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
0.3 3.1 0.31 - - -										
0.4 3.0 0.48 - - -										
3.0 3.0 0.80 - - -										
2 免震・制震・制振性能										
3.0 3.0 0.20 - - -										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
0.3 3.3 0.33 - - -										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
- 3.0 0.23 - - -										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
- 3.0 0.23 - - -										
更新必要間隔が20年以上の仕上げを採用										
- 5.0 0.09 - - -										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
- 3.0 0.08 - - -										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
給水、汚水排水は、通気、給湯C以上、冷温水D										
- 4.0 0.15 - - -										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
- 3.0 0.23 - - -										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
0.1 3.2 0.19 - - -										
3.0 3.0 0.20 - - -										
2 給排水・衛生設備										
3.0 3.0 0.20 - - -										
3 電気設備										
3.0 3.0 0.20 - - -										
4 機械・配管支持方法										
3.0 4.0 0.20 - - -										
5 通信・情報設備										
3.0 3.0 0.20 - - -										

3 対応性・更新性				0.2	3.9	0.29	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高4m以上で計画		5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.1以下で計画	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			事務所 床用積載荷重4900 N/m2で計画	3.0	4.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②			3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30		-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.7
LR1 エネルギー						0.40		-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.98	3.0	2.6	0.30		-	-	2.6
2 自然エネルギー利用			トップライトにて昼光利用	3.0	4.0	0.20		-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.54	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価								-	-	
4.1	モニタリング							-	-	
4.2	運用管理体制							-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30		-	-	4.0
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			大便器、洗面器など主要衛生器具は節水器具採用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	4.3	0.63		-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減			材料使用量を削減する構造計画		4.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	基礎や床スラブにリサイクル材を採用		5.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			外構や内装にリサイクル材を採用	3.0	5.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自		3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	分解しやすく再利用が行いやすい計画	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22		-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68		-	-	
1	消火剤				-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつGWPが1以下の断熱材を採用		5.0	0.50		-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境						0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率65%		4.4	0.33		-	-	4.4
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼用機器を採用していない		5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自	敷地内に用途ごとの駐車場を適切に計画		5.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33		-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自			3.0	0.50		-	-	
2	振動	独自			3.0	0.50		-	-	
3	悪臭				-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制				3.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		ガイドラインに沿った照明計画		5.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

ヤマザキマザック新棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:11%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ヤマザキマザック新棟

計画上の配慮事項	
総合	<p>建築計画として、十分なスペースや利用者が快適に利用できる空間を計画し、メンテナンス性にも配慮した計画としている。</p> <p>構造計画として、材料利用量を削減し、再利用可能な材を適宜採用している。</p> <p>設備計画として、設備の高効率化を図り、快適な空間と環境配慮を両立している。</p>
Q1 室内環境	<p>建物に必要な温熱環境や断熱性能を満たす計画としている。</p>
Q2 サービス性能	<p>階高や執務スペース、リフレッシュスペースを十分な広さで確保し利用者に快適な建物としている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>敷地北側や南側に植栽を計画し緑を確保している。外観についても圧迫感を軽減することを意図している。</p>
LR1 エネルギー	<p>高効率な設備機器を採用し、優れたBEI値を実現している。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>躯体やその他の建材にてリサイクル材を使用し、環境配慮を図っている。</p>
LR3 敷地外環境	<p>北側に樹木を設け、緑陰を計画している。また敷地外環境への障害を生じないように配慮している。</p>
その他	